

委員会活動 報告書

防災委員会

事業名称	公益社団法人 日本技術士会 中国本部防災委員会 令和3年度 第2回 WEB 防災講演会「再発する大規模災害への備えⅡ(洪水等)」 共催：(一社)建設コンサルタンツ協会中国支部，協賛：広島県士業連絡会		
実施時期	2022年2月4日（金） 13：00～17：00		
実施場所	オンライン講演会：日本技術士会中国本部から配信		
参加人数	オンライン開催 310名（招待メール420）	CPD	定期講演会 3時間30分
事業内容 と感想	<p>防災講演会は、コロナ・オミクロン株の拡大により、陽性者を出さないために、オンラインによる講演会に変更した。講演内容は次のとおりである。</p> <p>13：00 開会挨拶 (一社)建設コンサルタンツ協会中国支部支部長 小田 秀樹 13：05 講演①「気候変動下の激甚化する水害とその対応について」 一般財団法人 経済調査会理事長 森北佳昭</p> <p>14：05 休憩 (10分) 14：15 講演②「近年の広島県における洪水被害の特徴と教訓 ～水害多発時代に向けて～」 広島大学大学院准教授 内田龍彦</p> <p>15：15 休憩 (10分) 15：25 講演③「ご存じですか『洪水キキクル』」 広島地方気象台気象防災情報調整官 小島 豊</p> <p>15：55 講演④「太田川の特徴と河川整備について」 中国地方整備局太田川河川事務所長 平野明德</p> <p>16：25 講演⑤「広島県における想定最大規模の高潮浸水シミュレーション」 復建調査設計株式会社 沿岸・地震防災部 若槻好孝</p> <p>16：55 閉会挨拶 (公社)日本技術士会中国本部防災委員長 山下 祐一</p> <p>講演①は最近の水害について説明いただくとともに、川内川(鹿児島県)の洪水について、鶴田ダムの放流位置を下げる取組みにより災害を軽減した事例を解説され、ダムの貯水、放流の効果が理解できた。また、今後気候変動により洪水の発生頻度が2倍になることも示された。講演②は、広島県内の平成30年、令和3年の河川災害を整理され、教訓としても取りまとめられるとともに、災害箇所をシミュレーション解析した事例を示された。これらの結果は、今後の防災活動に大変参考になった。講演③は、「洪水キキクル」が災害避難に大変有効な情報であることから、一般への利用・活用が期待される。講演④は、太田川河川の特徴とともに、太田川の流域治水にあたり、氾濫対策や被害の軽減化のための対策ロードマップが示された。講演⑤は、過去の台風のコースと最大潮位偏差の関係を整理され、広島県の想定最大規模の高潮をシミュレーション解析し、広島市内では、最大3～5m、5～10mが予測された。今回の防災講演会は内容がよく、講演時間も適切であったとの評価もあり、今後の講演会に生かしていきたい。</p>		